

265) 秋めぐり逢い

ふたり歩いた散歩道には コスモスの花咲いていました
僕たちいつも一緒だよって そっと私の肩抱き寄せた
やさしかったあの人の 指先が^{あたたか}温 かった
まっすぐに生きていたころ すべてのものが輝いていた

^{とき}歳月が流れてまた秋がきて コスモスの花揺らいでいます
秋めぐり逢い人めぐり逢い でもあの人はもう帰らない

家路を急ぐ上り坂には 夕焼空が燃えていました
うしろにいつも私を乗せて 力いっぱいペダルを踏んだ
やさしかったあの人の はく息がまっ白だった
ま心を信じてたころ すべてのものが愛だった

駅へと向かう散歩道には ^{いちょう}銀杏の落葉散っていました
別れの言葉つらいからって そっと唇かさね合わせた
やさしかったあの人の ^{ぬく}温もりが忘れられない
透きとおる涙の中に 初恋の日がよみがえる

歳月が流れてまた秋がきて 銀杏の落葉踊っています
秋めぐり逢い人めぐり逢い でもあの人はもう帰らない

歳月が流れてまた秋がきて 思い出ばかりさがしています
秋めぐり逢い人めぐり逢い でもあの人はもう帰らない